

### 発明工夫研究大会開催！

発寒西小学校 高橋 裕幸

11月26日(金)に私の学校、札幌市立発寒西小学校で、北海道発明工夫連盟の研究大会が開かれました。その研究授業として、私が1年生生活科「インターネットで遊ぼう」という授業を公開しました。

生活科という教科にはなっていますが、内容としては新指導要領で創設される「総合的な学習の時間」を強く意識したものです。またそのための基礎となるような活動をと考えました。つまり、



正座してやっています。んー

1年生の段階での情報教育の基礎基本を考えようというものです。

「総合的な学習の時間(総合学習)」では、子供が自ら課題を創り、自分自身の力で解決することが基本とされています。そしてそのためにこれまで学習した力を総合的に活用していくことが望まれているのです。そうした活動では、子供達が自分で解決するための手立て、いわば「武器」とも言える方法が必要になります。当然、インターネット等の情報が大きな力を発揮していくことでしょう。

ですから、総合学習が始まる3年生までの間に、インターネット等から必要な情報を探し出し、取得することの意味を理解しておく必要があるだろうと思われます。また電子メール等で情報を相互にやりとりできること、また自分自身で情報を発信する意味等についても、慣れ親しんでおくことが必要になるだろうと考えます。その意味で、今回の授業では1年生でありながら、コンピュータを駆使して情報を取得し、発信し、相互に交換できるような活動を組み立てました。

具体的には、今回の研究授業では、同時に4つの活動を並行して行いました。

1. インターネットのホームページで遊ぶ
2. 6年生から来たメールに返事を書いて出す
3. 自分の家までの地図を描く
4. 自分の宝物の紹介ページを作る

というものです。これらはそれぞれ、情報の取得・交換・発信に位置付けられる活動でしょう。これらの活動が、1年生の段階でも十分に可能だということを検証する授業でもありました。

今回の授業では、「地域とのかかわり」ということも重視しまし

た。今回の授業には、40人を超える多くの支援者に参加していただきました。この方々は、教師やコンピュータ技術者ばかりではなく、本校に卒業生や保護者、周辺地域で様々な活動を行っている方や一般の主婦等、職種やこれまでの関わり、団体等の枠を超えて参加していただきました。これらの方々は今回の授業を通して、学校教育に積極的に関わり、大きな役割を果たしていただきました。

こうした一種のボランティア活動は、今後学校教育において、とても重要になってくるだろうと思います。学校だけの教育活動ではなく、地域が子供を育てるという立場で、地域に住む人々が教育活動に活動に大きく寄与する時代が来るのだと思います。そうした意味でも、今回の授業の意味は大きいと思います。

また、今回の授業創りの手法も、従来とは全く異なっています。支援者全員が、授業者である私を含めて、メーリングリスト(ML)で話し合いを進めました。授業の全体像から細部に渡って全てここに公開され、また実際に行われた子供達の活動や事前授業等の様子もここで話し合われました。これらを通じて当日の活動が形づくられていきました。通常、こうしたことは何度かの会議を通して行われるのですが、今回の授業では、支援者が集まる会議をほとんど行わず、MLでの情報交換がほとんど全てでした。こうした授業創りの手法も、今後の参考になるものではないかと考えています。

当日の授業では、多くの参加者と支援者に囲まれ、身動きできないような中でも子供達がのびのびと楽しんでいる様子が、多くの参加者に評価されました。またこうした活動の意味深さも認められたのではないかと考えています。

最後に、子供の感想文の一部を紹介して、この報告のまとめとします。

さいしょどきどきしてたけどコンピュータにいったら、おもしろくてはやくやりたいくて、おたすけまんがいっぱいきてくれて、もいっかいしたいくらいだったよ。コンピュータがわからなくなったらおたすけまんがきてうれしかったよ。ふつうのコンピュータとぜんぜんちがったよ。なんでいっかいひとがいっかいいたんだ。もいっかいやりたいよ。

### バーチャル雪まつり 第1回ミーティング開催

バーチャル雪まつり(VSF)の第1回ミーティングを、11月13日(土)に北星短大で開催しました。

ミーティングの目的は、参加校の子供たちの顔合わせと、話し合われているアイデアの紹介、これからのスケジュールの確認などです。といってもミーティングですべて決めてしまうわけではありませんので、遠くからの参加校が話についていけない、なんてことはありません。またできるだけ遠隔の学校にも雰囲気味わってもらおうと、インターネットを利用したテレビ会議ソフトの活用も試みました。

ところが運悪く、当日は北星短大のつながり先である北大のネットワークが、何年に1度のルーター置き換え工事のため、午前中使用不可の状態でした。これはまったくノーマークで、予定していた東京の玉川学園小学部と、福井の大野市上庄中との接続

試験がまったくできず、ぶっつけ本番になってしまいました。

会場では、市内近郊から50名以上の子供たちが集まり、熱気がむんむん。心配していた回線の方も開始時間過ぎにはつながり、まずは玉川や福井の子供たちと代わる代わるテレビ会議やチャットで交流しました。特に音声まわりなどで満足行ける交流は難しかったのですが、あちらで話し合っていたアイデアの交換などもすることができました。技術的な部分は次回の課題にしたいと思います。

平行して、会場ではいまイメージしているアイデアを、粘土や変形できる風船で子供たちに表現してもらいました。制作後、学校ごとに参加したみんなの紹介と、作った雪像案を発表してもらいました。テーマはさまざまでしたが、生物、地球に関連するものが、今年も多かったかな？ 発表後、作品を大通公園に見立てた机上の会場にぜんぶ並べて、ひとつひとつの写真を撮りました。その様子は、VSFのホームページ (<http://www.miceng.co.jp/VSF2000/>) にあります。

また、この日は交流できなかった熊本の岱明中学校は、その後VSFのアイデアとして土と水を使って校庭にウミガメの像を作ってくれました。一輪車40台分の土を使ったこの力作も、上のホームページから見れます。

VSFはこれからさらにホームページ上で話し合いを続け、第2回のミーティング(12月18日土曜日の14時から、北星短大)を経て冬休み前には雪像案を決めていく予定です。まだいままらでも参加できます。参加校のみなさん、頑張りましょう。

## 「'99『インターネットと教育』フォーラム」報告

荒島@札幌発寒中

11月28日(日)、大阪科学技術センター(大阪市西区靱(うつぼ)本町)を会場に「'99『インターネットと教育』フォーラム」(主催:インターネットと教育フォーラム実行委員会)が開催されました。今回のフォーラムはWebといくつかのMLだけに告知して参加者を募集したのですが、告知から2週間ですでに申込者は200名を超え、10月中旬には募集を締め切らざるを得ないという状況になりました。

前日の13:30からのスタッフミーティングでは郵政省通信政策室の高橋氏をゲストとしてお招きし、学校のインフラについて団交状態になるというハプニングもありました。70名のスタッフが総出で21:00ころまで準備にかかりました。北海道から正規のスタッフとした参加したのは、荒島@札幌発寒中、奥村@旭川凌雲高校、本谷@中標津高校でした。なんと、もう一人のコアスタッフである村田@標茶中は準備終了後にみんなの泊まるホテルに登場。僕と2人で大阪の夜を熱く教育談義を交したのです。残念ながら関西空港で携帯を忘れてきたことに気付いた尾崎@札幌清田中とは連絡がつかず、彼はきっと一人で寂しい夜を過ごしたに違いありません。

さて翌28日、スタッフ集合は8:30でしたが、その時刻にすでにセンター前には10数名の参加者が列をなして会場をまっているのではないですか。これには全く驚かされました。準備も滞りなく終わり、9:30には開場となりました。メイン開場の大ホールはすでに350名の入場者で埋り、当日参加者はメイン開場をTV中継している中ホールへと案内されましたが、ここも午前中にはほぼ全席埋るという盛会ぶりでした。企業展示ブースも気合いバッチリでした。もちろんスタッフであるわれわれに席なぞあるはずがありません。(危うく資料ももらえないところでした)北海道から

の参加者はスタッフの他に、尾崎先生、エレセンの北田さん、旭川凌雲高校の先生、早乙女先生でした。

総司会は京都ノートルダム女子大の吉田智子先生(わかりますか?「学校で教わっていない人のためにインターネット講座」の著者です)の発声で会が始まりました。以下当日の次第です。

開会挨拶 辻井重男(中央大)

来賓紹介

講演1 「日本のインターネットの歴史と教訓」 後藤滋樹(早稲田大)

講演2 「情報倫理と教育」 越智貢(広島大)

教育実践報告

1 小学校 コーディネータ 石原一彦(大津瀬田小)

「情報倫理の授業」 宝迫芳人(朝霞第六小)

「電子メールの扉を開こう」 榎崎安江(熊野第四小)

「病弱養護学校でのインターネットの利用」

幸地英之(沖縄森川養護)

2 中学校 コーディネータ 長谷川元洋(松坂中部中)

「総合的な学習の時間における情報倫理教育の在り方」

今塚生(小国白沼中)

「生徒情報倫理委員会を中心とした情報モラルの育成」

辻慎一郎(鹿児島鷹巣中)

「地域ネットを利用した屋久島プロジェクト」 永留貢

(上屋久島宮浦中)

3 高等学校 コーディネータ 高橋邦夫(千葉東金女子高)

「身の丈ネットワークの構築」 浦田治(三重菟野高)

「高校生のネットワークコミュニティ形成プロジェクト」

奥村稔(旭川凌雲高校)

どの先生もプレゼンテーションスキルが高く、来場した企業の方も驚いていました。昼には今回の仕掛人である越桐先生(大阪教育大)からプレスに方への説明会がもたれましたので、今後何かの折に、今回のフォーラムについて出版物で目にするのもあると思います。

さて、いよいよ本日のメインの「集中ディスカッション『児童、生徒に電子メールアドレスを発行すべきか否か?』」が始まりました。司会は中島康明(大阪盲学校・ACE関西)と宮澤賀津雄(川崎総合科学高)、パネラーに前田真理(広島吉島東小)、藤田賢一郎(上越城西中)、杉崎忠久(奈良大淀高)、西田光昭(柏市教研)、後藤邦夫(南山大)、コメンテータが後藤滋樹(早稲田大)と土屋俊(千葉大)です。Webで呼びかけた事前調査では、発行すべき30%条件付発行すべき55%、発行しない15%とのことでした。いきなり司会者がしゃべり出します... 誰も止められない状態です。パネラーから一言ずつ、そしてコメンテータからの段になって、土屋先生が「発行すべきでない」発言が飛び出し誰も止められない状態に拍車がかかります。それまではスタッフから「発行すべきでない」と強行に主張して参加者がそれをどう言い返すかすると面白いとか言っていたのですが、もはやそれどころではない状態に突入しました。「ここは大阪だから~」とドスをきかせる中島先生、しゃべまくる土屋先生... このままでは会場から発言する時間がないと心配していたのですがその途端会場へマイクを振りました。Yesはパー、条件付Yesはチョキ、反対はグーで上げることになったのですが、なんと手を上げて発言を求める人はグーが圧倒的に多いです。結局のところ時間切れで結論はできませんでしたが、非常に興味深いディスカッションでした。現在、インターネットと教育研究協議会(あれ、僕っていつの間にかこれのメンバーだったのですね^^;知らなかった...)の内部MLであるml-rinriを公開MLするので、続きはそこでやろうということになりました。

そして、エンディングでは主催者を代表して越桐國雄先生（大阪教育大）から挨拶があり、熱気あふれた1日が過ぎました。これは裏話ですが、土屋先生の仕掛けはワザトです。こうしてカメラマンとしてスタッフ参加した私は集合写真撮影に参加した後、懇親会を尻目に札幌へ戻るべく関空へと向かったのです。

さて、今回のフォーラムはわずか4ヶ月で会場の確保から準備をはじめたので400名まで受け付けられませんでした。次回は来年3月1日に早稲田大学を会場にフォーラムを開催します。なんでも今度の早稲田大の会場はヒロスエが登校している棟だそうです。1000人は収容可能な会場ですので大勢の方の来場をお待ちしています。

なお、ml-rinriや次回早稲田大でのフォーラム案内については、<http://www.k12.gr.jp/>で告知することになると思いますので、ブックマークのほどよろしくお願ひします。また、会場で配付された「'99インターネットと教育フォーラム実践報告集」は福島県教委の渡部先生の尽力でPDF化されます。これもここからダウンロードできるようにする予定です。楽しみにお待ちください。

## 情報化推進コーディネータ（ITC） 研修を終えて

荒島@札幌発寒中

8月から始まった情報化推進コーディネータ養成研修が11月の3回目ようやく終わりました。全国から集まった20名の研修生（学校関係者10名、企業関係者10名）はようやく研修が終わってほっとしている反面寂しさも味わっているようです。

さて、私は北海道から唯一この研修に参加させていただきました。最初は戸惑いも多く、そのうちに開き直るようになり、同じく研修に参加しているACE 関東の溝口先生@玉川学園 CHat NetCenterと夜な夜な横浜おでん屋台を探検しておりました。

そもそも情報化推進コーディネータとは何なのでしょう。現



長らくの研修お疲れさまでした。

在「雇用促進事業」関連で職にあぶれたSEさんやら、派遣SE委託制度の方々を同様の呼称で呼んでいます、それとは全く違います。第一「情報化推進コーディネータ」というものは資格制度としてこの世にまだ存在しません。私たち20名の研修生はごく近い将来この制度を確立するために実験的に集められたものです。情報化推進コーディネータという言葉は「情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて（情報化の進展に対応した初中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議 最終報告）」に出てきます。これによると、教育的、技術的な指導助言・ハードウェア、ソフトウェアに関する情報の提供・情報処理

技術者、ボランティアの活用に関する企画や連絡調整を行う独立した役職の様です。さらに、「バーチャルエージェント」の報告では「情報化推進コーディネータの配置『地域の情報教育プランの策定、ネットワークシステムの構築・管理、ヘルプデスクの運営、情報化に対応した研修の実施、各学校における情報化や授業へのコンピュータ等の活用、情報処理技術者・ボランティアの活用などを行う上でのコーディネート機能を果たすため、教育委員会等に情報化推進コーディネータを配置する。』」としています。もはやITCがこの世に正式に産声をあげるのは時間の問題のようです。そうなってわれわれの苦勞は報われると言えます。

さて、研修の方ですが、講師陣は以前も報告したように、永野先生（静岡大）を校長に、美馬先生（埼玉大）、堀田先生、山西先生（富山大）や高橋邦夫先生、渡部昌邦先生、折田一人先生といった一線級の方ばかりです。その参加者の名目で小川八丁堀先生@ACE上越などもいきなり登場する豪華な布陣です。教材として4枚のCD-ROMが渡されました。「情報化推進コーディネータとは」「学習編」「校務の情報化編」「技術編」です。それと、各講義と実習がメインとなります。私のような技術オンチは最後まで技術系の問題に泣かされました。「こんな本当に暗記していかなくてはならない事項なのか」と思いつつ、勉強するのですが全く理解できないまま研修が過ぎていきます。学習に関しても「総合的な学習の時間」についてやこれからのコンピュータ（情報）教育の在り方を徹底的に学びます。これは、現場教師である私には非常にありがたかったです。何せ全国どの学校でも今直面している課題ですから。

講習の最中は4名でひとグループとなるのですが、この4名がディスカッションをし、当たられた課題を解明し、プレゼンを行うというサイクルとなります。つまり、情報化推進コーディネータの役割を徹底的に理解し、人間関係をどう構築し、企画力とプレゼンテーションスキルをあげるのが目的となります。集まったメンバーは少しはコンピュータ（ネットワーク）を利用できる学校関係者（教師とか指導主事とか）と普通学校と少し？は関わりのある企業の方です。しかし、互いの立場の違いは理解の程度に微妙に違いを与えます。例えば、私のような教員の立場では「学校現場で使える環境」をめざしますがそのための技術的な部分はチンプンカンプンです。逆に技術系の方は企業の方からの「ご提案書」になってしまいます。ITCに要求される企画はそのどちらでもあり、どちらでもないものです。この辺は私のグループでも話題になりました。僕のグループの技術系の人に凄くその辺のスキルの高い方がいらっしやいました。なんと「福島あぶね研」にも参加しているとのことでした。それぞれの価値の違いのぶつかり合いがとても面白かったです。

do-aceに最終課題を投げ込みましたが、あれを作り上げるのが一番大変でした。各グループと研修生全体のためのMLとBBSは用意されています。研修と研修の間はこれを使ってコミュニケーションを図りディスカッションを続けていくことになっていました。つまり、研修そのものもさることながら、研修と研修の間をどうするのかということが大変重要となってきました。しかしながら、研修が終わりそれぞれの土地に戻れば日常の業務が待っているのです。ITCの仕事はそのような業務のついでにできるものではないと痛感しました。私の場合実際最終課題は飛行機に乗る直前までかかりとりあえずプリントアウトできるものはこっちで用意し、予算案を含む20数ページの企画書を作成し、横浜のホテルでパワーポイントスライドを作成するということになりました。（しかし、PHSのアダプタを忘れてしまったので、ホテルからモデムカードでダイヤルアップして必要なデータをそろえました。遅いのなんのって...おまけにアクセスポイントは札幌だし）当日

のプレゼンでは力が入るあまり、ついITCではなく教師として発言してしまいました...大失敗です。前回のプレゼンでは資料を世見落としてロールプレイとは知らずにプレゼンして大失敗したのですが、またやらかしてしまいました。

ITCの立場は私のような教員から見ても非常にストレスのたまるものです。しかし、これからの学校や教育行政には欠くことのできない職であると思います。資格制度ができたのならばぜひ取得したいと思います。また、今後2回目3回目の研修が開かれることがあるのならばぜひ参加することをお勧めします。今回の研修生はその後の様子を交流すべくMLを残しました。さらに1年後にアクティブに動いている受講生の地域に乱入する計画もたてられています。そういう意味では新しい人間関係ができたと言えます。

最後に「第1回情報化推進コーディネータ養成研修修了証 No.0001」を受講生を代表してJAPETの宮嶋会長から受け取りましたことをご報告しておきます。なお、今回の研修の様子は近々JAPETのWebで公開される予定であることを付け加えておきます。

## 1999年度支部総会と標茶教育セミナー 開催のお知らせ

早いもので、また年末総会の季節となりました。今年は、ちょうど標茶で予定されている教育セミナーにタイミングを合わせて行おうと思います。札幌からはちと遠いですが、是非とも多数ご参加ください！

### 【標茶教育セミナーのご案内】

村田じょーじ先生の頑張りにより、町内小中学校全校にインターネットが整備され、着実に学校情報化を進めている標茶町のことは、みなさん既にご存じのことと思います。最近の調査では、町内の教員でPCを操作できる比率がなんと70%を超えているとのこと。これは全国平均を14ポイントも上回っています。この標茶町の学校情報化の核となっている標茶町コンピュータ教育研究委員会(SEC)の主催で、以下のイベントが開催されます。ACE北海道も全面的に協力します。

平成11年度 第1回標茶町コンピュータ教育研究委員会セミナー  
「地域社会と学校教育」～インターネットが教育に果たす役割～  
開催要項

日時：平成11年12月11日(土)午後1時～4時

会場：標茶町開発センター 第2研修室

内容：

基調講演：「地域社会と開かれた学びの場」

札幌市清田区役所 小松宏人氏

実践発表：「根室の教育現場におけるコンピュータ利用の現状」

根室市立柏陵中学校 北島武雄氏 ほか2件

パネルディスカッション：司会・北星学園女子短大 武田先生

参加無料、申し込みは所属・氏名を明記の上FAXで01548-7-9020(阿歴内小中学校内事務局)か

sec-post@kids.edu.town.shibecha.hokkaido.jpへ。概要はWebにもあります(<http://www.sec.edu.town.shibecha.hokkaido.jp/seminar/>)。

### 【1999年度ACE北海道支部総会のお知らせ】

そういうわけで、今年の総会は標茶で開催します。教育セミナーとセットで、参加いただける方を募集しています。

1999年度ACE北海道支部総会 開催概要

日時：平成11年12月12日(日)午前9時～10時

会場：藤花温泉ホテル(標茶町旭2丁目、TEL.01548-5-1650)

<http://www.sip.or.jp/norikazu/fujihana/welcome.html>

標茶ツアーの宿泊場所です！

内容：

1. 1999年度支部事業報告
2. 1999年度支部会計報告
3. 2000年度支部事業計画
4. 2000年度支部予算計画
5. 2000年度支部役員・幹事の選出について
6. 1999年度ACE北海道支部MGTの選出について
7. その他

報告、計画文書は近日中に「オンコの木」Web(<http://onko.ncf.or.jp/>)に上げます。

### 【標茶ツアーについて】

以下の日程を標準コースとして、参加者を募集しています。

12月10日(金)19:00 札幌発スーパーおおぞら、釧路駅前泊

11日(土)午前 釧路発JRで標茶へ

午後 標茶教育セミナーに参加

夕 町のみなさんと懇親会

藤花温泉ホテル泊

12日(日)午前 支部総会参加

午後 釧路経由札幌へ

お申し込み、お問い合わせは事務局・青柳(011-210-5506、[aoyagi@hokkaido-np.co.jp](mailto:aoyagi@hokkaido-np.co.jp))までどうぞ。

## 編集後記

Macの中でWindowsが動くこの不思議。ファイルのやりとりもドラッグ一発、もうPCなんていらぬや。(吉田)

事務局の部屋が移転しました。来年3月までの暫定ではあるのですが、道新本社ビルの7Fから8Fへ。部署名を表示する掛札もなく、窓もないこの部屋に、穴モグラのようなわれわれは生息しています。ところがよく考えてみると、5年前に北海道支部立ち上げの発起人会の会場となったのが、他にもないこの部屋にあった会議室なのでした。あの時武田支部長はまだ駆け出しの専任講師、荒島先生は気鋭の性教育者、そして今はなきエビナさんはやっぱりほら吹きだった...歴史は巡る。遊びに来てよね。(青柳)

先日ACE本部の払い下げ機材の申し込みをしました。というのも、長年(といっても5年くらいかなあ。)使ってきたPM8100の電源がお亡くなりになってしまわれたのです(合掌)。なんとかワガタ8匹...じゃなかったクアドラ800をゲットして電源をスワップして生き返らせようとたくらんでいるのです。やっぱり古くなった機械でも愛着のあるモノは捨てられませんね...と間接的に払い下げ機材ゲットのための根回ししてみました。ははは。(見澤)

オンコ知新。(武田)

## 教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1999年11月30日発行

事務局：〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当：青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX 011-210-5532